

インフルエンザワクチンの接種について

インフルエンザの予防接種を実施するに当たって、受けられる方の健康状態をよく把握する必要があります。そのため予診票はできるだけ詳しくご記入ください。なお、未成年の場合は、健康状態をよく把握している保護者をご記入下さい。

インフルエンザ予防接種の副反応

予防接種の注射の跡が、赤みを帯びたり、はれたり、痛んだりすることがありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。また、僅かながら熱が出たり、寒気がしたり、頭痛、全身のだるさなどがみられることもありますが、通常 2～3 日のうちに治ります。また、接種後数日から 2 週間以内に発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識障害の症状が現れる等の報告があります。非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などがあらわれることがあります。

予防接種を受けることができない人

(1)明らかに発熱のある人（一般的に、体温が 37.5℃以上の場合を指します。）

(2)重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

急性の病気で薬を飲む必要のあるような人は、その後の病気の変化が分からなくなる可能性もあるので、その日は見合わせるのが原則です。

(3)インフルエンザ予防接種に含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人

「アナフィラキシー」というのは通常接種後約 30 分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐(おうと)、声が出にくい、息が苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

(4)その他、医師が不適当な状態と判断した場合

上記(1)～(3)に入らなくても医師が接種不適当と判断した時は接種できません。

予防接種を受けるに際し、 担当医師とよく相談しなくてはならない人

- (1)心臓病、じん臓病、肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
- (2)前にインフルエンザの予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発疹(ほっしん)、じんましんなどアレルギーを思わす異常がみられた人
- (3)今までにけいれんを起こしたことがある人
- (4)今までに中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人
- (5)今までにぜん息と診断されたことがある人
- (6)インフルエンザ予防接種の成分又は鶏卵、鶏肉、その他の鶏由来のものに対して、アレルギーがあるといわれたことがある人

予防接種を受けた後の一般的注意事項

- (1)予防接種を受けた後 30 分間は、急な副反応が起こることがあります。医師（医療機関）とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
- (2)インフルエンザワクチンの副反応の多くは 24 時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。
- (3)入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすることはやめましょう。
- (4)接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。